

1 概要

- (1) 開催日：2008年12月17日（水）17：00～19：00
- (2) 場所：株式会社アイアイジェイテクノロジー 関西支店
- (3) 今回の座長役：寺西（ストアジャパン社）
- (4) 議事録作成者：川口（船井電機）
- (5) 出席者：24名 小川（アイアイジェイテクノロジー）、加瀬（大阪科学技術センターATAC）、久保田（大和ハウス）、日下（住友電気工業）、佐原（鈴与）、角（竹中工務店）、中居（銀泉リスクソリューションズ）、西濱（西濱防災ネット）、廣本（神戸大学）、前田（富士火災）、柳父（大阪ガス）、大和（リックシステム）、尾坂（京セラ）、神部（富士通エフサス）、藤村（竹中工務店）、速水（大阪地下街）、大辻（日本公文教育研究会）、松本（日本工営）、荒二井（日本気象）、萩原（大林組）、杉原（大阪市）、田中（グリコ栄養食品）（順不同・敬称略）
- (6) 議題
「2008年 私が最も関心を持ったBCPテーマ」

2. 議事

- (A氏) 儲かるBCPをテーマにやってきた。具体的には、和歌山県内の企業のBCPの策定の仕事を行ったが、その答えは見出せなかった。来年も儲かるBCPをテーマにやって行きたい。
- (B氏) 1時間に100mmを超えるようなゲリラ豪雨で被害が出ている。降れば、必ず被害が出ることが予想されるゲリラ豪雨の情報を携帯電話でも受信できるようにしている。このような情報は情報システムに依存しているため、そのバックアップが重要であり、顧客からも必ず尋ねられるようになってきた。
- (C氏) 2社に対して、BCPの策定指導を行っている中で、労務管理分野の相談・・・災害時に出勤できない人への給与の支給方法や有休の取り扱い・・・など。今後、機会があれば、労務管理分野について、他の方のご意見もお聞きしたい。
- (D氏) BCPの策定を企業に指導していると、リスク想定でひっかかる場面がよくある。そのような場合、わかりやすい想定をするように勧めている。企業間の意見交換をしながら勧めてゆくのも有益である。指導する側は経営全般のあり方のアドバイスからはじめ、そこからリスク対応へ話を進めるのが良いと思う。
- (E氏) 顧客先においてリスクサーベイを実施し、保険への商談へ結び付けている。
- (F氏) 社内でBCPを実施しようとしたが、会社がそのように向かわなかった。BCAOにおいては、災害情報分科会にて活動を続けている。
- (G氏) 東京の事業所にてBCPの策定に参加し、BS25999の初の認証を受けた。現在は、関西の事業所にてBCPの策定を行おうとしている。
- (H氏) 新型インフルエンザのリスクシナリオが見えない、という問題で悩んできたが、考え方を切り替えて、一度サイクルを回してみようとのアプローチを行ったところ、状況が良い方向に変わってきた。
- (I氏) 大阪市内の避難訓練の回数が今年は5倍に増えており、地域からの災害時の資機材の提供の申し出も増えてきた。
- (J氏) 今までの情報システムのバックアップ（BK）のやり方では、10億円のシステムに対してBK費用が4億円かかる。この費用を出せるのは、金融と製薬しかない状況。IT業界全体が、これを1億円でやれるようにしないとBCPは進まない。昨今の事件を見ていると、経営者の倫理観の欠如が目立つ、何があってもブレない倫理観が重要と考えている。
- (K氏) 以前は企業防災として取り組んできたが、3年前よりBCPとして取り組んでいる。現在は、首都直下型地震を想定した「24時間以内の支払い」という顧客サービス向上のためのBCPに取り組んでいる。今後は、会社業務を対象にしたBCPに取り組んで行きたい。
- (L氏) 地下街へのゲリラ豪雨等による大量の水の流れ込み対策として、地下街側の対策だけでは不十分であり、地下街に繋がっている企業の協力も得る必要がある。
- (M氏) 9.11の経験を経て、アメリカよりBCPツールが上陸しようとしている。CSRの世界では、石田梅岩の「三方善し」の思想が世界から評価を受けている。

- (N氏) 近年、食品企業の不祥事が多発している。原因は企業倫理とともに経営者及び幹部にみられる広義の事業継続責任意識の欠如であると思う。
- (O氏) 1年半の期間をかけて全社BCPを作成した。全社への浸透には、各事業単位のやる気をたかめることが課題である。そのためには、今後、ISO化などが期待される。
- (P氏) 四川地震の現地調査を行った。現在、損害保険系やシンクタンクなど複数のBCPコンサルティング会社へ訪問している。BCP策定済みの会社では、PDCAを回すのに苦労している会社があり、BCP策定時から運用することを考慮したBCPの文書構成が求められているように思う。コンサルティング会社もそのニーズを意識したコンサルを新たに行っているように感じる。
- (Q氏) 顧客との建築の商談経験の中で、BCPの策定に対する費用対効果の検討結果として、その策定まで進まない、との実態がある。日本政策投資銀行のデータと同様である。今後は、外圧やISO化によって、BCPに弾みがつくことが望まれる。
- (R氏) 上町断層の被害想定が、これまでの5倍になったことに対応して、設計の立場から、その対策に真剣に取り組んでいる。特に対策費用を大幅に上げない方法が重要になると考えている。本件に関する報道姿勢は、「騒ぎすぎ」のように思われる。専門家が、事実即した冷静な対応について、きちんと説明をして行かなければならないと思う。
- (S氏) 新型インフルエンザについては、「正しく恐れるべし」と言われている。パンデミックは起こってみないと、誰にもわからない。まず、なすべきことは感染防止であり、最後に事業継続となる。対応力はイメージ力であり、イメージ力が大切であると思う。
- (T氏) これまで、会社はBCPに消極であったが、厚生労働省の発表「都道府県内に新型インフルエンザ感染者が1例発生すれば、学校は一斉休校する」の発表を受け、近日中に、会社としての新型インフルエンザ対応策を発表することになった。
- (U氏) もともと有事対策を実践している職場であり、BCPイコール有事対策との理解であったが、最近、BCPとの違いが、職場内にて理解されるようになった。
- (V氏) 「調達におけるBCの方向性～サプライチェーンへの対応」に関して、ご発表を受けました。単一購買と複数購買など・・・。
- (W氏) 地元の大阪府大東市危機管理課との、日頃の防災活動に関するお付き合いの結果、同市は今年からBCPの策定に着手されました。

以上